

事業所における自己評価結果（公表）

事業所名： こどもセンター かおるおか

公表：令和8年2月

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は目標
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・定員に対して基準以上の広い空間があり、感染症対策にも適している。 ・発達段階や特性、目的に応じた生活動作の練習ができる。 ・広さや高さが十分に確保され、雨の日でもこどもが思いきり身体を動かせる「うんどうのへや」や自然を感じられる眺望の良いテラス、落ち着いて活動できる療育教室が適切に設けられている。 ・気持ちさが落ち着く海側の部屋、情緒的な配慮が必要なこどもには専用のスペース、自然な支援方法を活かす情緒が安定するようにスペースを考慮した作りとなっている。 	
	2	利用定員やこどもの状態に対して、職員の配置数は適切であるか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・施設基準を遵守し、必要な配置体制を組んでいる。こども4人に対して1人の支援者（及び加算等の体制含む）を常に維持し、職員はいかなる状況でもその体制を意識して支援を行い、こどもたちの安全を第一に考えている。 ・療育支援を行う職員は、基本の資格者（保育士、児童指導員）に加え、公認心理師、作業療法士、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、栄養士等の資格保持者である。 ・支援上の情報共有は、可能な限り文書で保管、整理し、共通理解を深めている。 ・支援の真の意味を理解して、以心伝心で動く力も日々高め、確認している。 	
	3	療育空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、一人ひとりの特性に応じ、事業所の設備などは、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各部屋の方向や順序がこどもたちにわかりやすいように設計されている。 ・豊かな自然に囲まれた立地を活かし、四季の掲示物は実物を展示している。 ・「情報伝達のためのオープンな構造」と「個人情報の管理に適した構造」がそれぞれある。 ・こどもの成長や変化が見えやすい、アセスメントに適した構造になっている。 ・静かな時間を十分に保つことができる空間を選択することができる。 ・建物や備品の角や素材を点検し、安全面での対応（クッションを貼るなど）を行っている。 	
	4	療育空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こどもたちの活動に合わせた空間（外活動を含む）となっているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・療育中や療育終了後に分担して感染症対策を中心とした清掃をしている。 ・トイレや手洗い場は都度、こまめにチェックし掃除をしている。 ・日々の清掃に加え、定期的に専門業者による専門の全体清掃を行っている。 ・安全に過ごせるように療育教材の質や量、配置を含めた環境設定を常に行っている。また、定期的にドアや机、椅子などのこどもたちが日々使用する物に不具合がないか確認し、不具合があった場合は修繕している。迅速な処置を行い、こどもたちの安全を第一に考える体制である。 ・例えば、夏の暑い時でもテラスで園庭同様の活動が行えるなど、開放的な屋内で季節を味わえる空間・環境である。 ・自然の教材が豊富な園庭では、思いきり身体を動かしたり、感覚を感じたり、想像したりして、のびのびと過ごすことができる環境である。また、毎日園庭の整備・清掃を行い、目視にて安全をチェックしている。 ・万一を想定し園庭の門扉のカギについては、こどもの安全を考えて導入した新たな方式（強力なゴム製のバンド）を現在も維持している。摩耗、劣化した場合には速やかに取替えを行っている。 	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・クールダウンの目的や個別のニーズに合わせた使用ができる。 ・家族通園でご家族が来園された場合についても、複数の部屋が用意されており、自由に見学や降園まで待機できるようにしている。 ・こどもが登園後に急な発熱や感染症等を発症し、個別に看病等で対応が必要な場合でも、こどもが安心して過ごせるための部屋が用意されている。 	
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の研修や会議、ミーティングがある。 ・療育者として、社会人としてのスキルを段階的に身につける研修を行っている。 ・法人主催の新人研修があり、外部講師や内部講師を招いている。 ・職員全員が周知徹底できるよう、復命研修を行っている。 	

業務改善	7	ご家族向け評価表により、ご家族などに対して事業所の評価を実施するとともに、ご家族等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・率直なご家族の声を反映して、業務改善につなげている。 ・ご家族が不安な気持ちを表現できるように、常に話しやすい雰囲気を作り、維持している。 	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的および随時、意見を聴く機会を設けている。 ・日々のしくみや職員育成等の根幹を全員で作っているという意識を持っている。 	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・こども支援に関わる施設（児童発達支援センター、事業所等）、行政機関や医療機関、大学・学術機関の方などの見学・研修を積極的に受け入れ、第三者による評価を受けるとともに、率直な意見・感想をいただいている。 	
	10	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・全国から研修の講師が来られ、資格や専門に関する研修会へ参加している。 ・自分の資格に関する専門的な研修会に参加し、自ら資質の向上に努めている。 ・施設内外において多角的な視点からの研修が計画・実施されている。 ・研修内容を整理し、全職員が共有できるように復命研修や資料の回覧またはミーティングなどで情報公開をしたり、個別にレクチャーしたりする等、理解を深めスキルアップに努めている。 	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの専門性を基に作成し、公表している。 ・法人ホームページにて公表するとともに、書面にて各ご家族に個別に説明する機会を設けた。 ・季節の行事の開催や行事で使用する道具の選定や制作は、それぞれの専門性に基づいて計画し、実施している。 	
	12	アセスメントを適切に行い、こどもとご家族のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・複数の視点で児童発達支援計画を立てている。 ・施設見学時の様子や利用開始前の面接時にそれぞれの専門分野でアセスメントを行い、ご家族のニーズをていねいに聴いた上で児童発達支援計画を作成している。 ・相談支援専門員の話聞き、計画相談との整合性を保っている。 	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインに基づいて個別支援会議を実施し、こども一人ひとりの支援について確認し、共有している。 ・日々、共通理解する時間をもち、発達に関する哲学や方法論を語り合っている。 ・こどもの日々の変化等、職員間で情報を共有し、児童発達支援計画に反映している。 	
	14	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援計画の意味や方法を職員で共通理解する研修を重ねている。 ・こどもへのかかわり方や声かけを職員間で日々振り返っている。 ・支援の意味をご家族へ言葉で説明することを意識している。 	
	15	こどもの発達や適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールなどの客観的な指標（資格保持）で確認しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・標準化された発達検査や心理検査、アセスメントツールを取り入れ、日常の様子や行動と合わせて共通理解している。 	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ都度、児童発達支援計画書の書式を改定しており、項目は増加している。 ・5領域の視点を大切に、各領域の専門性を生かした総合的な支援内容を設定している。 ・わかりやすく、その子らしさを大切にできる計画書を心がけ作成している。 	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・活動方針から具体的な内容まで、チームで話し合いを重ねて立案している。 	
	18	療育の積み重ねを基盤にしたベーシックプログラムに加え、活動プログラムが固定化しないようスペシャルプログラムを採用しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・こども自身の選択や決定を大事にした上で、必要な経験が積めるように常に教材や内容を検討し、またこどもの発達や日々の状況に応じて、それらが固定しないよう、教材の扱い方や教材自体を変化させるなど、活動に幅が出るような工夫をしている。 ・発達段階や状況に合わせて、活動の教室設定や内容を工夫している。 ・支援者の思いや発想、スキルが活きるプログラムを積極的に取り入れている。 ・自然あそびでは、種を取る、枝や葉を手につく、ちぎる等の動作に関連する植物を積極的に療育に取り入れ、様々な組み合わせやバリエーションを経験できるようにしている。 	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	○		・こどものアセスメントの結果を分析し、どのような活動（組み合わせ）がより発達段階や状況に合っているかを提案し、最終的には会議を経て作成している。	
関係機関や保護者との連携	20	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		・利用者ご家族の暮らしに影響を及ぼさないよう、職員が自分自身の体調を管理し、感染症対策を行い、支援体制を整えている。 ・受け入れ前のミーティングで、支援内容や役割分担を把握・確認している。 ・ホワイトボードで常に視覚的に状況を一目瞭然に理解・確認できる仕組みを採用している。 ・受け入れ時にご家族とともにこどもの様子や変化を観察し、その日ごとの健康状態について理解を深めている。 ・天候や気温の変化も考慮して、支援内容や役割を確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		・療育体制に関すること、危機管理に関すること、療育上のこと、明日のことなどを毎日振り返り、その都度、必要なことを上司や同僚に相談している。 ・短時間でも内容の濃いミーティングとなるように内容を精査している。 ・当日の会議に参加していない職員にも、再度説明するか書面に整理して伝達する。 ・重要事項は直接各自が報告している。	
	22	日々の支援に関して重要な部分を記録に残し、支援の検証・改善につなげているか	○		・記録を書き、困ったことはその日に相談している。 ・記載漏れがないかなどの確認作業を適時行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		・ガイドラインに基づいてモニタリングを行っている。 ・随時（定期的に）職員会議を開き、多角的に見直している。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか	○		・こどものことを理解し支援している児童発達支援管理責任者やふさわしいと思われる職員が参画している。	
	25	地域の保健やこども・子育て支援等の関係者、主治医や協力医療機関等、関係機関と連携した支援を行っているか	○		・保健センターや子育て支援関係者の見学を受けいれ、常に連携している。 ・こどもが暮らす地域の保健師、市の方々には、こどもたちやご家族の変化を見守っていただき、必要に応じて相談をしている。 ・受診にあたり、ご家族の依頼に基づいて情報提供書を作成している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか また、移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		・併行通園先の園と日頃からコミュニケーションをとるように努めている。 ・併行通園先の園と情報共有の会議を行っている。 ・移行支援として、情報提供書などの作成を行っている。 ・インクルーシブの理念を大切に、それぞれのご家族と相談しながら移行の時期や方法を判断して、安心して地域での暮らしにつなげるよう支援している。	
	27	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		・必要に応じて、ご家族とも相互理解を図り、安心して移行できるようにしている。 ・移行支援として、情報提供書、療育要録の作成、連絡会の準備を行っている。 ・インクルーシブの理念を大切に、それぞれのご家族と相談しながら移行の時期や方法を判断して、安心して地域での暮らしにつなげるよう支援している。	
	28	（２８～３０は、センターのみ回答）	○		・地域の他の児童発達支援センターの方々が出席する会議に参加したり、地域で開催される研修の講師を受けたりしている。 ・障害児通所支援事業所からの研修依頼を受けている。当センターでの研修や出向いての研修を行っている。	
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか				
	29	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		・講師の方に来ていただき、職員研修をしている。 ・地域で開催される研修に参加して、研修後に復命研修を行っている。 ・県や市が主催している研修に積極的に参加している。	
	30	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		・積極的に参加できる体制を組んでいる。 ・こどもや子育てに関係する委員や講師を積極的に受けている。	

		(31は、事業所のみ回答)				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか	○		・職員は、地域の園見学や研修に積極的に参加している。 ・個々のこどもや家族の意向を聞きながら、地域の幼稚園や保育園の利用（一時保育含む）を積極的にすすめ、個々に合った地域移行の具体的な方法やタイミングを助言をしている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		・日々の会話や連絡帳を活用して、暮らし全体の把握に努めている。 ・日常生活動作の様子を写真で撮り、定期的に保護者にお見せし、日々の具体的な支援や内容、趣旨を説明して、ご家族と共通理解を図っている。 ・登園時や療育中、降園時を通して、日々のこどもたちの様子やかかわり方などを伝え、共に肯定的に理解する努力をしている。	
	34	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	○		・初期には、家族通園を行い、能動的にこどもへのかかわり方を学ぶ仕組みがある。 ・感染症対策を優先した上で個別や小グループでの学習を行っている。 ・ご家族の不安や悩みを聴き、よりよい暮らしとなるように面談している。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		・入園の際に、施設長や児童発達支援管理責任者等が説明している。 ・作成した支援プログラムについての資料をご家族へ説明・配布している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか	○		・心理的な技法でよく聴き、思いを尊重している。意向を確認する際には、聞き間違いや思い込みがないように、複数で面談を行うこともある。 ・日頃からコミュニケーションをとり、こどもやご家族が意向を表明できる関係性を築いている。	
	37	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		・必ず同意を得ている。 ・安心していただけるように、日々の活動の具体的な場面を通してわかりやすく説明する機会をつくっている。 ・児童発達支援計画を説明しながらご家族と内容を確認し、不安や不満の残らぬよう疑問点や不明な点をその場で聴き、随時加筆修正を行っている。	

保護者への説明責任等	38	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・園内だけでなく、ご家庭へ出向いて相談を受けることもある。 ・日頃から話していただきやすい雰囲気づくりを心がけている。 ・「事業所内相談（子育てサポート）」や「家庭連携支援（家族支援）」「電話対応」などを通して傾聴している。 ・自由に見学や待機できる複数の部屋を用意し、常に接しやすく相談しやすい「開かれた施設」を心がけている。 	
	39	家族の会などを開催したり、グループワークを実施するなど、ご家族同士の連携を支援しているか きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のご家族の意向を聞きながら、グループワークや行事等への参観を通して、様々な形態の交流の場を設けている。 	
	40	こどもやご家族からの相談や申入れについて対応する体制を整備し、こどもやご家族に周知した上で、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・面接の希望がある場合は、その日に日程調整を行うか、調整に必要な時間の見通しを具体的に示して、不安が軽減するようにしている。 	
	41	定期的に会報などを発行し、活動の概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもやご家族に発信しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・法人が発行している会報に、かおるおかからのメッセージを載せ、毎回ご家族にお渡ししている。 ・行事の日程や外部からの行事催しのお知らせについては、その都度迅速にお便りで知らせている。 ・お便りの渡し漏れがないよう、ダブル・トリプルチェックにて対応している。 ・年に数回おたよりを発行し、季節柄注意する点、こどもの日常生活や園活動に関すること、成長に関することなど、幅広くご家族にとって関心の深い内容やかおるおかからのメッセージを発信している。 	
	42	個人情報の保管場所を定めるなど、個人情報の取扱いに十分注意しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・個人記録ファイルやUSBなどの個人情報に関する物は、管理担当者を定め保管している。 ・鍵のついている棚で保管している。 ・個人情報を取り扱う際は、一定の場所で行い、取り扱い前後は管理担当者への報告を徹底している。 ・職員は入職時、守秘義務についての説明を受け、理解のうえ誓約書に署名しており、守秘義務を徹底している。 	
	43	障害のあるこどもやご家族との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・内容・重要度等を考慮し、面接や電話（通話、ショートメール含む）、連絡帳やお便りなどの幅広い手段で対応するよう配慮している。 ・こども自身が分かるように、言葉遣いや表現等に配慮している。 	
	44	地域の方々との温かく心地よい交流ができ、開かれた事業所運営を図っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自治会長や班長をはじめ、近隣の方々からは開園当初より温かい励ましの言葉をかけていただいている。 ・朝は挨拶を交わし、会話をしながら同じ時間帯に地域の掃除をしている。 ・こどもたちが楽しめるように、季節の花やくだものを届けてくださる。 ・台風などでは、かおるおか周辺の天候を事前に電話で教えてくださる。 ・こどもたちやご家族、職員の安全を地域の方々が見守ってくださる。 ・地域の民生委員、児童委員の方々が見学に来られ、こどもたちと楽しい交流をして下さった。 ・今後も感謝の気持ちを忘れずに、諸活動を通して地域の方々のご縁を大切にしていきたい。 	
	45	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員やご家族に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・作成しているマニュアルを定期的に確認し、座学とシミュレーションでの職員研修を行っている。 ・AEDを設置し、毎朝点検し、取り扱いについても全体で研修している。 ・パルスオキシメーターを導入している。 ・法改正に伴う送迎バスの緊急用ボタンについて、使用方法を職員で研修した。 ・各マニュアルについてご家庭でも取り組めるように、それぞれのご家族に合わせて個別に伝えている。 ・ご家族が自由に閲覧できるよう、所定の場所にファイルを設置している。 	

非常時などの対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・防災士による月に1回の「避難訓練実施計画」を立て、毎月避難訓練を実施している。 ・実施後は、訓練の内容や詳細をご家族に書面や連絡帳への記載を通して、わかりやすく説明している。 ・実施後は、参加した職員がアンケートを記入し、訓練を振り返っている（各自の気づきを整理、共通理解することで改善につなげる）。 ・業務継続計画に基づいて非常食を備蓄しており、加えてご家族にご準備いただく個別性の高い備蓄にご協力いただき、それぞれ定期的に内容を確認し見直している。 ・防災士による職員研修（机上訓練）を実施し、災害について理解を深めている。 	
	47	通園開始前に、服薬や予防接種、てんかん発作などのこどもの状況を確認しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・通園開始前に、児童発達支援管理責任者等がこどもの状況を聞きとり、必要書類を提出していただくようにしている。 ・通園開始後は、児童発達支援管理責任者や支援者が日常の様子を確認し、情報を追加している。 ・アレルギーや熱性けいれん等の既往がある場合は、医療と連携して療育を行っている。 ・ご家族へは、療育に関する医師の意見書の提出をお願いしている。 ・単独で通園するときには、主治医に書面にてご意見をいただいている。 ・一人ひとりの状況に応じた細やかな対応については、ご家族と確認している。 	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に必要書類に記載していただく。 ・医師の指示書に基づき、給食では除去食、代替食等を提供している。 ・給食では、配慮ごとに食器の色を分け、支援方法を示したカードを置くなど、視覚的にも分かりやすいように工夫している。 ・アナフィラキシー症状が懸念されるこどもについては、緊急時の対応を医師、ご家族と共通理解している。 ・食物アレルギーについては、命が危険にさらされる場合があるということをご家族にも深い理解や意識をしていただくよう、説明には努力や工夫をしている。 	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理の担当を決めて、毎日の管理と報告を確認している。 ・「安全確認記録」を作成し、その様式に沿って毎日ミーティングで確認している。天気予報を含めた予測される危機状況についても想定して、一日安全に過ごせるように確認を行なっている。 	
	50	こどもの安全確保に関して、ご家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、ご家族等へ周知しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に説明した上で、入園後にもご家族が確認できるよう、ファイルを閲覧スペースに設置している。 	
	51	ヒヤリハット事例集の作成や非常時対応の研修を行い、再発防止に向けた方策を共有しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・事例報告書を作成している。 ・非常時の対応について、実地研修や講義を受けている。 ・予想を超える様々な事象が起こることもあるので、引き続き、研修を継続する。 ・常に外部および内部での研修を積み、職員全体で情報を共有する。 ・外部（法人）の事例報告も受け、幅広い非常時を想定した対応を再確認している。 	
	52	虐待防止の研修や療育方法に関する研修を常に行い、日々適切な対応をしているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止の研修に参加した上で、全体で復命研修を受けている。 ・こどもだけでなくご家族と一緒にいる療育空間なので、療育のすべてがオープンであり、よい緊張感が常に職員にはある。 ・虐待防止の意識をご家族と一緒に高めている。ご家族もこどもとのかかわり方を学び、虐待や虐待防止の知識・理解を深めている。 ・チームアプローチの仕組みがある。 ・自分の言動への率直な感想をもらえる（話せる）関係を大事にしている。 ・県や市等が主催する研修会の講師を受け、地域での役割を担っている。 ・理解や関わりで気になることがないかを常に意識する。小さなサインに気づいたときは必ず相談し、チームで対応するようにしている。 	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもやご家族に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・特に入園初期に行動の激しさが顕著なこどもや情緒的な配慮が極めて必要なこどもへの支援は、ご家族と十分に話し合い、児童発達支援計画にも反映している。 ・クールダウンの必要性や命の安全についての研修を職員に重ねている。 	